萩開府420年記念
長州ファイブシンポジウム

萩博物館蔵

2024年10月5日(土)

長州ファイブ

1863年、のちに「長州ファイブ」と称えられる、井上 馨(いのうえ かおる)・山尾 庸三(やまお ようぞう)・井上 勝(いのうえ まさる)・伊藤 博文(いとう ひろぶみ)・遠藤 謹助(えんどう きんすけ)は、日本が欧米列強の植民地化の危機にあった幕末期、命がけで英国へ渡り、帰国後は日本の近代化・工業化の舵取りとしてそれぞれの道で顕著な功績を残しました。

長州ファイブジュニア

平成18年度から、国際的視野を広げるとともに、文化的な交流を深めることを目的に、次代を担う中学生５名「長州ファイブジュニア」を、長州ファイブが学んだ英国へ派遣しています。

本年は、７月28日から８月13日までの17日間、ロンドン大学のサマースクールに参加しました。

次第

1 開会

主催者挨拶
　萩市長

2 講演会

演題　「英国の個人より萩市に寄贈された
　　「長州ファイブ」関係資料」

講師　萩博物館総括学芸員
　　道迫　真吾

3 長州ファイブジュニア報告会

派遣研修生による報告

講評　萩市長

4 閉会

挨拶
　萩市教育長

萩東中学校　3年　秋月（あきづき）　真奈（まな）

私は、イギリスへ行って、本当にたくさん良い体験をすることができました。
イギリスでは、主に、「校外アクティビティで観光・文化体験」、「レッスンで英語を学ぶ」、「校内アクティビティで他国の学生と交流」の３つの行動パターンでした。

校外アクティビティでは、イギリスの歴史的な場所や、美しい風景を訪れることができ、特に、バッキンガム宮殿の衛兵交代はかっこよくて、印象に残りました。イギリスの博物館や美術館は入場無料のところが多いです。理由は、全ての人が平等に展示やアートを楽しみ、教養を蓄えるためだそうです。自由で平等、そんな素敵な文化に触れることができました。

そしてレッスンでは、日本のいつもの授業とは全然違っていて、皆が積極的でした。ヨーロッパの国々は、時間にルーズだったり、自分優先なところがあったりといった自由なところもありますが、そんな１人１人が軸をもった自由な性格は、勉強において、とても主体的で、置いていかれそうになりました。ジェスチャーで表すにも、難しい言葉の壁にぶち当たったのが、レッスンでした。

とても悔しかったです。思い通りにコミュニケーションがとれなくて。

けれど、その悔しさをバネにしようと思います。

世界には同年代でも、こんなに積極的で、英語で自身の意見を述べられる、そんな人がたくさんいるんだ、と知ることができました。私もこれから「生きた英語」をもっと勉強して、また海外へ自信をもって留学したいと思いました。

さて、校内アクティビティでは、ダンスをしたり、カラオケをしたり、バレーなど、運動もしました。ここでは、言語が通じなくても、国関係なく全力で楽しみました。ディスコでは、日本の文化を紹介するために、浴衣を着て、扇子を持っていきました。たくさんの人に「Beautiful!!」と褒められ、おみやげの扇子も使ってくれました。このディスコを

きっかけに、イタリア人グループと仲良くなれました。インスタグラムを交換していて、今でもやり取りが続いています。

初めての国際的な交流、異なるバックグラウンドを持つ人たちと話すことで、視野が広がりました。

全体として、イギリスでの留学は、貴重な経験であり、英語力や国際感覚を養う良い機会となりました。

つらいこともたくさんあったけれど、その分の気づきはもっと多かったです。他文化に触れてみることで、改めて日本の良さに気づけたし、レッスンでのコミュニケーションのおかげで、自分の英語力のレベルの低さに、改めて気づかされました。

また、日本について聞かれたときに、具体的な良さが上手く言葉にできなくて、英語にも表せなくて、実はまだまだ知らないことばかりだと気づかされました。

これらの「気づき」は私の成長の第一歩になると思います。気づきを改善して、また気づいて改善して、それを繰り返して、いつか絶対またイギリスへ行きます！そして、他の国にも留学してみたいです。

この体験のおかげで未来への希望でいっぱいです。長州ファイブジュニア英国留学において、私を支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。これからも応援よろしくお願いします。

萩東中学校　3年　鈴木　花英（かえ）

語学研修に参加するにあたり、私には渡英してやりたい目標が三つありました。

一つ目は「海外の学生や現地の人とのコミュニケーションを通じて英語を学び、自分の語学力がどこまで通じるかを試すこと」、二つ目は「何が起こってもポジティブに考えて、後悔しないように自分の意見や考えを伝え、積極的に行動すること」、三つ目は

「萩の自然や歴史、古い町並み等の魅力を海外の人に伝えること」です。

まず、海外の学生とのコミュニケーションについてです。レッスンやアクティビティで様々な国の学生と交流する機会がありましたが、会話は全て英語でした。自然と寝ても覚めても英語を話すしかない状況に身が置かれ、どっぷりと英語に浸かることができました。自分が求めていた状況でしたが、最初は想像していたようなスムーズなコミュニケーションが取れませんでした。身振り手振りや簡単な単語を使い、なんとか伝えようと必死でした。そのおかげもあり、時間が経過するにつれ、良く使うフレーズが分かるようになり、自信がつき積極的に自分からコミュニケーションを取れるようになりました。

また、レッスンの開始、終了時において、先生に向けての挨拶がありませんでした。この挨拶はどこの国でも「普通」にあるものだと思っていたため、とても衝撃を受けました。しかし、他国の学生にとっては挨拶がないことが「普通」でした。何が「普通」なのかを考えさせられ、改めて文化の違いを肌で感じ、自分が海外にいることを実感しました。自分達では気づいていませんが、日本人は礼儀や感謝の気持ちを大切にしていると思い、日本の良さを実感できる出来事でした。

次に、自分の意見を伝えることについてです。イギリスでのレッスンは日本での授業とは大きく異なるものでした。先生が話をして生徒がメモを取るという一方的な授業ではなく、先生と生徒がお互いに意見を出し合い、みんなで授業を進めていました。日本の授業でも、話し合いやグループ活動をする機会はありますが、自分の意見を持っていない人、話し合いに積極的ではない人がいます。しかし、イギリスではみんなが自分の意見や考えを持っており、積極的かつ自由に自分の意見を伝えていました。

私も最初はなかなか勇気が出ませんでしたが、渡英前に決めた「迷ったらやってみる」という目標を思い返し、「間違えても大丈夫」と自分に言い聞かせて、失敗を恐れず積極的に発言しました。

その結果、他の学生が質問をしてくれたり、一生懸命英語を聞き取ろうとしてくれました。「自分の意見を伝えるため積極的に行動する」ことで英語が流暢に話せなくても、楽

しくコミュニケーションが取ることができると感じました。

次に、萩の魅力を伝えることについてです。今回の研修では、様々な国の友人を作ることができました。最初のレッスン時、私の席はロシアとウクライナの学生に挟まれ、少し不安になってしまいました。しかし、２人は初めて会うとは思えないほど仲が良く、とても驚きました。海外の人とコミュニケーションを取るにあたり、相手の出身地や立場は関係ないのだと感じ、自分の視野が広がる出来事でした。

彼らとは映画や日本のアニメの話をして盛り上がり友人になることができました。萩の観光名所が描かれている手ぬぐいを渡した際には、「It's very beautiful!!」と喜んでくれました。また、萩の祭りなどについても紹介しました。みんな日本が大好きだったので、私はうれしく、誇らしく感じました。

イギリスから帰国後もロシア、中国、台湾、イタリア等の友人とは、インスタグラムを通じて英語で連絡をとりあっています。

校外活動のエクスカーションでは、ビッグベンやグリニッジ天文台の標準時子午線などの有名な観光地へ行きました。ロンドンでは多くの歴史的な建物が大切に保存されており、萩の魅力である古い町並みと似ていると何度も感じました。１つ１つの建物がとても大きく、教会が多くあり、日本の昔ながらの建物とは違う、本格的な西洋の文化に圧倒されました。

17日間の研修を通して、文化の違いを肌で感じ、多くの友人を作り、たくさんの経験をすることができました。渡英前の目標である「海外の学生と積極的に交流すること」、「何が起こってもポジティブに考えて自分の考えや意見を伝え、行動すること」、「萩の魅力を現地で出会った人に伝えること」は達成できたと感じています。とても濃密でかけがえのない17日間でした。

たくさんの人に支えられて、素晴らしい経験をすることができました。今回の研修を支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、イギリスでの貴重な経験を成長の糧として、今後もチャレンジ精神を持ち、意欲的な学びに取り組んでいきたいと思います。

最後になりますが、このようなチャンスを与えてくださった萩市長をはじめとする関係者の皆様、一緒に研修に参加し支えあった４人の仲間、いつも私のことを心配してくれた家族に感謝を申し上げます。

萩光塩学院中学校　３年　中村　暖（のん）

「生きた器械」が必要である、と考えた先人達が命の危機を顧みず渡英した。約160年後の今、同じ地へ「長州ファイブジュニア」の一員として渡英の機会を手に入れることができ、好奇心と責任感を抱きながら長時間のフライトを過ごしました。

日本とは違ったレンガ造りの建物、シルバニアファミリーの世界が広がっているような三角屋根の住宅街…。

「これがイギリスか」私は目の前に広がる世界に一瞬で虜になってしまいました。

実際の研修は、大学での英語レッスンと大学のプロジェクトであるエクスカーション、萩のプロジェクトであるゆかりの地巡りを行いました。

文化や言語の異なる集団の中で生活をしていく楽しさや難しさを感じる毎日でした。帰国した今、17日間を振り返ったとき、強く心に残っていることが３つありました。

一つめは、他国の生徒との交流についてです。私は主に、ロシアやイタリア、中国、ウズベキスタン、台湾、ペルーから来た人と交流を楽しみました。他国の生徒は、自分の意志を強く持っており、堂々としていました。更に、年齢性別関係なく、積極的に自分の考えを伝えていました。

交流していく中で、時間の感覚や価値観などの意識が異なっており、始めは戸惑う場面もありましたが、結果として自分の価値観を客観的に見ることができました。自分の視野の狭さを実感すると共に、周りに流されることなく、自由に自分のことを表現する姿に憧れを持ちました。

二つめは、語学力についてです。昨年の先輩方から英語でのコミュニケーションについてのアドバイスを受け、翻訳機を使わずに自分の単語力と表現力でコミュニケーションを楽しむと決めていました。

しかし、実際の会話の中では、相手のテンポに合わせようとすると、頭の中で文を組み立てる前に会話が進み、焦ってしまいなかなか文法を使うことができませんでした。また、日本で聞く英語と違い、リンキングがかかっており、何度も繰り返して言ってもらうなどして会話をしました。

会話を続けていくことで、表情やジャスチャーで自分の言いたいことを伝えることができるようになりました。自分の英語力のレベルを実感できました。そして、机で学ぶ英語だけでなく、日本語を知らない人にも通用する英語を学んでいく必要があると思いました。

三つめは、文化や産業についてです。歴史的な背景もありイギリスには、多国籍の人が集まっています。そのため、多様な異文化と触れ合うことができました。個性を大切にしており、お互いを大切にし合うイギリスの人々が大好きになりました。

またイギリスには、有名な建築物や独特な食文化があり、目に映るもの全てが新鮮で、歴史的な文化と最先端の文化が共存していました。博物館や科学館などでは、イギリスの産業革命の賜物である蒸気機関について学ぶことができました。また、日本とは違い、博物館や科学館には無料で入ることができ、子どもたちへの教育に力を入れていることを知ることができました。

一つひとつの出会いや経験が楽しく、私にとって大きな学びとなりました。

そして「考え方の変容」が大きな財産となりました。国や地域、文化や教育、宗教など様々なバックグラウンドを持った人と関わっていく中で、自分の中にある「当たり前」や「常識」が通用しないことを経験していくことで、大切にしていくものの多様性が生まれてきました。

先人達は帰国後、日本の近代化、工業化の舵取りとしてそれぞれの専門分野で功績を残しました。最後に、私は今回の語学研修において、語学力の重要性も強く感じました。

学ぶことができる環境にも感謝したいと思いました。歴史を変えた先人達が育った萩で私はこれからも新しいことに挑戦したり、探求していく姿勢を持ち続けたいと思います。

今回の研修にあたり、事前研修会を始め、空港までのお見送りなど支えてくださった方々に感謝したいと思います。このような機会を与えてくださり本当にありがとうございました。

萩東中学校　3年　西村　依那（えな）

私たちは７月28日から８月13日の約２週間の間、長州ファイブジュニアとして、イギリスに語学研修に行ってきました。その時に学んだことや感じたことをここに報告します。

私は合格通知をもらった後、もう一度英語の学習をし直し、イギリスでどんな日本の良さを伝えたいのか、どんな日本の文化を広めたいのかを考え、英語で訳した文章を覚え、一ヶ月過ごしました。

イギリスから帰国した今、渡英前に立てた二つの目標「海外の友達を作る」、「萩市のことを世界に広める」を達成できたように感じています。

自分から、英語でたくさん話しかけてできた他国の友達と、夜のアクティビティで萩市のことを話したりしました。イタリア人の友達に萩のことを伝えると実際に遊びに来てくれることになりました。

私はこの語学研修で学んだことや感じたことが大きく四つあります。

一つ目は、考え方の違いです。日本では無意識のうちに、相手のことを気遣う行動をしています。例を挙げると、トイレや街中でのマナーです。

日本では、次に使う人のことを考えて利用する人が多く、清潔な状態を保とうとしているように見えます。イギリスでは、トイレが有料の場所がよくありますが、有料であっても清潔に保たれていることが少なく感じました。そして街中、特に都市から離れれば離れ

るほど、道路にゴミがたくさん落ちていました。そのため、ペットボトルも日本とは違い、キャップとボトルが一体化され、もし捨てたとしても、見つけづらいキャップがなくならないような工夫がされていました。日本では、ゴミを捨てないことに着目して考えられていますが、イギリスでは、捨てた後のことに目を向け考えられていると感じました。

二つ目は、語学力の違いです。大学でクラスに分けられ、色々な国の人達の英語を聞いていると、自分の英語がどれほど拙いものなのかがよくわかりました。同じクラスになったトルコ人に話しかけられ、答えることができず困っていると、翻訳機を使って会話をしようとしてくれました。そこで私は、自分の知っている単語をつなぎ合わせて、ジェスチャーを交えて話しかけると、相手も私の英語を理解してくれました。自分の英語でも一生懸命伝えようという気持ちや身振りで相手に伝わるのだと感じました。

そのトルコ人に、どういう英語教育を受けているのかを聞くと、英語の授業中に、ALTと一人ずつ会話をする時間があると聞きました。自分たちの英語教育は一対一ではなくクラス全員対ALTのため、一人一人のレベルに応じた学習ができていないと知り、英語教育の差を知りました。

ロシア人の12歳の男の子は、英語を理解して話すスピードが、私が日本語を理解して話すスピードと同じだった為、英語が自分の言語として、身についていると感じました。日本の英語レベルが世界の英語レベルに追いついておらず、私も実用的な英語レベルには程遠いと実感しました。

三つ目は、多様性を大切にしていることです。一人一人の見た目、考え方をとても尊重しているように感じ、周りにいる人達はとても、自信に満ち溢れているように感じました。日本は文化的に集団行動や協調性を大切にされることが多いのに対し、外国は一人一人の自立を目指し、個性の尊重を大切にするという文化をとても感じました。イギリスへの留学を通して、様々な国の人の話を聞いたり、イギリスの文化に触れることで、多様な文化の良さを感じ、日本の良さを再認識しました。

四つ目は、家族の大切さです。三輪精舎の石井さんのお話で、毎日家族に感謝の気持ち

を伝えているか問いかけられました。私は、伝えられていないと反省し、思っているだけでは伝わらないと改めて思いました。留学の準備や学習の支援に感謝を伝える事をせずにいたことに気づきました。実際に留学をし、家族と離れてみて、親や兄弟の大切さがよくわかりました。

今後、「物事一つ一つが当たり前ではないこと」、「感謝の気持ちを持つこと」を忘れないようにしていきます。

この２週間でたくさんの人に萩市の良さ、日本の良さを、渡英前に準備していた英語や、扇子などを使って伝えることができました。この経験を活かして、私の後輩達に、英語の楽しさ、素晴らしさを伝えていきたいです。

最後になりますが、この研修に携わってくださった方々、貴重な経験と参加する機会を与えてくださった萩市長様、教育長様をはじめとする萩市の皆様に感謝を申し上げ、私の報告を終えたいと思います。本当にありがとうございました。

旭中学校　3年　山根　莉音（りおん）

長州ファイブジュニアの英国研修を終えて、学んだことが４つあります。

１つ目は、積極性の違いについてです。

日本人は相手に合わせ、顔色をうかがい、なかなか前に出られません。授業の際、私もそのような積極性に欠けた態度を取っていました。しかし、周りの外国の学生たちは間違っていても気にせず、積極的に発言をしていました。

私はその光景に驚いたのと同時に、自分から発言することの大切さ、そして失敗を恐れないメンタルを同年代の学生から学び、もっと発言をしなければという意識改革の場になりました。

２つ目は、時間についての考え方です。

研修では待ち時間が多く、長いときは１時間も待つことがありました。最初は少し不満を抱いていましたが、この時間通りに行動するという「時間厳守」は日本の文化だと分かり、外国の文化と日本の文化を比べられる良い機会になりました。

私も時間に縛られないほうが、やりたいことが出来て発想力や自由度も高まることがあります。時間に対する考え方や時間軸が国によって違うということを学びました。

３つ目は、長州ファイブや他の留学生を支えたウィリアムソン教授についてです。

三輪精舎の佐藤さんや石井さんのお話では、ウィリアムソン教授は長州ファイブの５人を迎え入れ、瀕死の状態だった山崎小三郎を受け入れ、看取り、亡くなった後はお墓を建てられたようです。

「私にこんなことが出来るだろうか？」と想像したとき、到底出来る気がしないと思うと同時に、そのウィリアムソン教授の慈悲深さに深く感動しました。

教授は文明発達という大きな志を立てて、異国の方への教育を実践されました。私も私利私欲のためではなく、萩市や地域のために貢献するには何を志にするか、何をすればよいかを考えさせられました。

４つ目は、イギリスの移住についてです。

「イギリスではなぜ地方移住が進んでいるのか？」を現地の方に尋ねることができました。

イギリスでは、コロナウイルスが流行した頃からリモートワークが増え、通勤しなくても仕事ができるようになりました。従って都市部にいる必要もなく、地方へ移住し家を建てる人がとても増えたそうです。そしてそれは、コロナが収束した今でも続いているようです。

価値観や人生観の多様化によって、家賃の高い都市部に住むより、地方移住して悠々自適にスローライフを楽しむことが本当の幸せと考える人が増えたのでしょう。それがイギリス都市部の一極集中では無くなり、地方部の地域活性化にも繋がっているのかと

思います。

イギリスの事例を聞いて、私たちの住む地域に都市部からの移住者を増やすにはどうすれば良いかを考えさせられました。

イギリスのように政府機関や民間企業も地方へ移る方向に進めば理想的ですが、まずは私たちが今できることとしては、萩市や地域の魅力をSNSなどを活用して都市部へPRしていくことだと思いました。そして、萩市や地域の特色に着目して地元ならではの資源を活かし、更には人や団体を育てる仕組みを作っていけたらと考えています。

難しいことかもしれませんが、少しずつ長期的に進めていけたら、萩市や地域の活性化に繋がるかもしれません。

最後に、令和の時代になっても、長州ファイブの先人たちのようなイギリス研修に参加できる環境にいること、この萩で学べるということを誇りに思います。

萩市長様、教育長様をはじめとする関係者の皆様、そして周りの方々や協力してくれた家族に感謝し、この研修で身につけた力をもとに、萩市に貢献出来るよう、志高く進んで行きたいと思います。

182
AM
PM
WED
THU
FRI
SAT
SUN
LESSONS
OPTIONAL DAY

Royal Observatory
Greenwich

主　　催：萩市・萩市教育委員会

特別協力：公益財団法人上廣倫理財団